



津奈木公民館
電話(78)5400
○右の題字は「徳富蘇峰さん」
の額を写したものです。

津奈木



紫陽花



楽しかった 修学旅行

修学旅行ほど楽しく心に残る行事はありません。きつと、それぞれの年代によっていろいろな思い出があることでしょう。七十代の方々はいかがでしたか。戦中、戦後の激動の時代ですから…。交通機関にしても、汽車が主流ではなかったでしょう。五、六十歳代になると、修学旅行らしいスタイルになり、バス中心になりました。現在は、中学校は関西方面、小学校は長崎方面になっていきます。中学生はインターネット等を利用して、自分たちで情報を収集し、総合学習の一環として取り組んでいます。小学生は、三校間の友情が芽ばえ、歴史や文化を学び、感性豊かになりました。

今も昔も変わらぬものは、一緒に旅行した同級生です。一生の財産として心に残ることでしょう。

一言

私が嫁いできてもう二十一年になり、やっと地域の方に慣れ始めたところです。嫁いできた時は、両親もまだ若く元気でした。今は二人とも他界し、私たちは親子とインコのピーちゃんになってしまいました。

義父は厳格で気難しい人でした。結婚して間もない頃、湯加減を見ず熱いお風呂に入った義父から注意をされた私は、「あの時は相当熱かったのだから」と反省したのは後々でした。反対に義母は優しく働き者でした。子育てや、野菜を作る喜びなど、教わることの日々でした。子どもには、昔の遊びや、「どっちの方へ雲が流れたら雨が降る」など、おばあちゃんの知恵をたくさん教えてもらいました。朝晩仏前にお参りをする主人。手を合わせ線香の灰を体につけていく長女。「いいちゃん、ばあちゃん、おはようございませう。」と鐘を叩き、どこへ行くにも「行ってきます」と声をかけて出かける家族。いつも私たちを見守ってくれているようです。

財部美智子(町中地区)

子ども美術館(20)

文化協会奨励賞(平成十四年度)

津奈木小三年 山下 えり

魚の口ポットを発明し、海の奥深くで魚と遊んでいる絵です。作るのにむずかしかったのは、小さく刻んだ紙をうろこのように一枚ずつはったところでした。



※「子ども美術館」紹介シリーズは文化協会奨励賞で十五年度作品が決まるまでは十四年度作品です。

平成十五年度

社会教育団体役員紹介

津奈木小学校PTA		赤崎小学校PTA		平国小学校PTA		津奈木中学校PTA	
会長	新立 晴敏	会長	上村 勝法	会長	松崎伸一郎	会長	長崎 廣人
副会長	若島 一弥	副会長	伊藤 恵子	副会長	野崎 恭一	副会長	山崎 久子
顧問	山本 久	顧問	成田 典子	顧問	平畑 美幸	顧問	
PTA連絡協議会		老人クラブ連合会		津奈木町青年団		赤崎校区婦人会	
会長	長崎 貴久也	会長	長崎 重輝	会長	石田ミサ子	会長	伊藤セイ子
副会長	財部美智子	副会長	津田 和子	副会長	福山 二子	副会長	森本 温美
書記	大淵 洋	書記	伊藤 恵子	書記	村山 真由美	書記	福山 二子
監査	上村 勝法	監査	成田 典子	監査	野崎 久子	監査	福山 二子
事務局長	川上 安喜	事務局長	松原 保男	事務局長	永田 正人	事務局長	川上 安喜
事務局	永田 正人	事務局	川上 安喜	事務局	永田 正人	事務局	川上 安喜

・赤崎地区(將軍神社祭り)
・平国地区(平国天子宮祭り)
・中尾地区(田之神祭り)

トップをきって五月二十四日、川内地区「ほたる祭り」が実施されました。楽しくなごやかな雰囲気、地元グループのバンドやゲームで盛り上がりしました。

編集後記

「津奈木公民館報」の表題「津奈木」は右から読むようになっています。通常横書きの場合は左から書き読みます。この公民館報の表題の書は、津奈木町に關係の深い徳富蘇峰先生九十四歳の書を引用しております。

平成四年十一月号までは縦書きでしたが、平成五年一月から横書きになって現在に至っています。編集会議で話題になりましたので紹介いたします。

「ここを開いて
考えてみませんか?
人権のこと」



町内三小学校合同 修学旅行(長崎方面)

今年は、児童数の減少や経費面を考慮に入れ、三校合同で実施されました。

津小 柳迫 萌実
私は、今度の修学旅行で命の大切さや友達との関わりなどを学ぶことができました。原爆資料館や鳥原普賢岳資料館で、多くの人が亡くなり悲しい気持ちになりました。平和記念像の前にみんなで折った千羽鶴をささげ、ずっと平和であることを願ってきました。

また、この修学旅行は、赤崎、平国小学校と合同の修学旅行だったので、みんな仲良くなれるチャンスでした。最初は照れくさかったけど、部屋が一緒だったので楽しく話すことができました。



三校合同旅行(平和公園前)



赤崎小の児童たち

心に残った原爆資料館
赤崎小 佐々木 明日香
私が印象に残ったのは、原爆資料館で見た当時の写真でした。全身をやけどしていた人の写真があつてかわいそうだなあ、原爆はとっても怖いなあ。と思

した。私はもつと原爆のことを調べたいと思いました。

楽しかった修学旅行

平国小 村上 千尋
私達六年生は、津奈木町の三校合同で修学旅行に行きました。私は「知らない子でも、自分から話しかける」というめあてをもって行きました。フェリーの中やホテルの中で、他の小学校の人たちに自分から話しかけて

郷土を知ろう

町中と町原

津奈木に町中と町原と、町の付く地名が二ヶ所ある。江戸時代、熊本・八代・川尻・高橋・高瀬の五ヶ町のほか、在町として芦北郡内に日奈久町(八代市)・陳町・浜村町(水俣市)があつた。いずれも海をひかえた位置にあり、有明海を通過して近海・島々との取引によって享保期(一七二〇頃)から栄えた所である。津奈木の場合、町中も町原も今では海も遠くなつてしまつたが、昔はどちらも海がそこまで迫つていた。町中の南は沖田で、海であつたことは間違いない。

人生を楽しもう!



理事長 船場奎吾さん

今年一月、津奈木町に待望のグラウンドゴルフ協会が設立されました。老人?スポーツの一環として、現在四十二名の会員さんが、楽しまれています。ゲート・ボールと違う点は個人競技で、時間を気にせず、誰にも迷惑がから



私のおすすめの本は「青い石の伝説」という本です。ストーリーは、冒険者を夢見る魔法少女マリリンが、夢の都アルシヤンへ行き、仲間達といっしょに二百年前に四年間の治世で若くして病死したというユリアナ女王の青い石のくびかざりをめぐるって竜の森へ行く。その森でねむっているという竜を目覚めさせ、くびかざりを持ち帰る。というストーリーです。

読書感想文

「青い石の伝説」

津小6年 小鯖 希音

反対にこの話でかなしかったのは、二百年前の女王様のことです。この女王様は、良い政治を行なっていたのに、たつた十四才で亡くなつてしまいました。また、かしこすぎたためか、一部の人からきらわれていました。良い政治を行なつたのに、それをねたむのは、とてもかなしく思いました。この本を読み始めた時は、楽しそう

ボランティアが健康づくり

田口浩二さん(61)

染竹地区にお住まいの田口さんをお訪ねしました。

田口さんは永年過ぎられた愛知県を後にし、故郷に帰って来られ六年余りになられます。もう皆さんもお逢いになったことでしょう。「重盤岩にいます」と言え



田口さんと高尾さん

さんと言えは重盤岩にいる人と言つてくらに有名です。本人がおつしやるには若い頃無茶をし、身体をこわされての帰郷だつたそうです。

朝・夕二回歩いておられます。最初は十段位しか登れなかつた階段も少しずつ距離を延ばされ、元氣になつたのが嬉しくて目にとまる道筋のゴミを拾いながら歩いて、今では散歩コースの草刈り等、美化に務めておられます。

以前この紙面にご登壇いただいた高尾さんを中心に染竹地区の木原さん、前田さんと散歩仲間草取りのボランティアグループができています。津奈木の顔である重盤岩がきれいになっているのは



みんなでボランティア



団塊の世代から

赤崎小学校長 田中 豊志

この団塊の世代の人たちの遊びは物心ついた頃から年長者の後について、遊び方を教わりました。そこでは子どもも社会の年長者が、年少者の面倒をよく見たし

予想されています。日本は世界で初めてどの国も経験したことがない人口の四人に一人が六十五才以上という「超高齢化社会」が到来するそうです。

では、今の子どもたちはどうでしょうか。家の中の遊びがほとんどです。また遊び道具がないと遊べない状況も見られます。自分たちで遊びを作ったり、物を作ったりという経験が不足しています。つまり遊びを知らないのではないのでしょうか。

少子化の進行は高齢化に拍車をかけています。今の子どもたちが大人になった時の日本はどうなっているのでしょうか。今こそ、この子どもたちにたくさん体験・経験をさせたいものです。

短歌

本郷武雄選

つなき短歌会
筆あとに思ひこめしか亡き母の
笑まいたちくる古き手紙に
白浜美和子
高台に新らしく家建ち並び
ダム底となる村見降しぬ
西川 ムキ
夏坊主空に向かい伸びいしが
一夜の嵐に今朝倒れいぬ
沢田しずを
群れて咲くヒラカンサスの白き花
五月の風に微か揺れいる
福田八重子
若き講師の熱弁ふるう「地元学」
一途なる眼受けて聞きいる
西 滋子
はつ夏の風匂ふな郵便夫
声さわやかに便届くる
寺本ツルヲ
ゆくりなくつつじ祭りに行き逢ひて
共に登りぬ花の中道
野田 浦子
不あんばい
一目でわかる ぶつちよ面
おだてられ
人の分まで きや請けて
神無月
不あんばい
お茶代つあ なかつちなあ
おだてられ
のぼせた奴が 偉うなり
達生
不あんばい
寝たり起きたり咳したり
おだてられ
ことわりきれず引き受けて
寅之助
不あんばい
あん飲み助がウーロン茶
おだてられ
あと腹んせく ほめ殺し
宰相
不あんばい
パジャマ着たまま日の暮るる
おだてられ
やつと調子の出てこらす
万葉
〔次回の笠〕
○買い過ぎて ○お年です
一笠一句を 八月十一日(月)迄
津奈木町教育委員会へ
訂正
前回は誤りがありましたので
訂正してお詫言します。
誤 惜しいなあ
正 惜しいなあ
三人どみあ 生まじあし
三人どみあ 生まじあし
三人どみあ 生まじあし
達生